

## 派遣海賊対処行動水上部隊第26次隊への派遣隊員出発に際して

本日、派遣海賊対処行動水上部隊第26次隊としての行動のため、SH-60Jを2機、護衛艦「きりさめ」に搭載しました。出発に際し、大村航空基地で出国行事を行いました。派遣隊員は、名古屋1尉以下8名です。大村所在部隊の隊員のほか、防衛協力団体の方々等にお見送り頂き、澄み切った秋晴れの中、2機は大村航空基地を飛び立ち、「きりさめ」への搭載を完了しました。

さて、海賊対処行動も平成21年3月、ソマリア沖・アデン湾においてわが国関係船舶を海賊行為から防護するため、海上警備行動が発令されたことを受け、護衛艦2隻が第1次隊として派遣、わが国関係船舶の護衛を開始して以来、7年半となります。この間には、平成21年6月、派遣海賊対処行動航空隊が加わり、また、平成25年からはCTF151に参加し、区域防護の任務が付与され、海上自衛隊は与えられた任務を、濟々肅々と遂行し、海洋安全保障の一翼を担ってきました。これらの取組が功を奏し、派遣当初は200件を超えていたソマリア沖・アデン湾での海賊の発生件数は、ここ数年、極めて低い水準で推移しておりますが、ソマリア国内の貧困といった海賊問題の根本的な要因が未だに解決していない状況に鑑みれば、我が国が海賊対処を行っていかねばならない状況に大きな変化ありません。

他方で、海賊行為に対して脆弱な船舶からの直接護衛の要望は引き続きあるものの、商船による自衛措置の実施が浸透してきたこともあり、護衛艦による直接護衛の所要は減少の傾向にあります。

かかる情勢を踏まえ、今回派遣される第26次隊からは、これまで2隻派遣されていた護衛艦が1隻に変更された初めての派遣となります。本派遣においては、臨機応変な対応を求められることも多々あるかと思いますが、派遣隊長指揮のもと、派遣搭乗員は、これまで培った知識、経験を如何なく発揮して第26次水上部隊の任務遂行に尽力してくれることと思います。

また、派遣隊員の御家族の皆様におかれましては、派遣期間中、御不便や御心配をお掛けすることと思いますが、航空隊として最大限のお力になるべく御支援を致しますので、御相談などございましたら、些細なことでも構いませんので、いつでも遠慮なく、御連絡を頂きたく存じます。

結びに、派遣搭乗員の航空安全と第26次水上部隊の任務完遂及び御安航を祈念しますとともに、今後とも、皆様の御理解と御支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

平成28年11月16日

第22航空隊司令 1等海佐 大山 康倫